

住民のやらされ感を払しょくするコツと手法は何か

提言

住民のやらされ感を払しょくするには、まず地域の状況を知り、助け合いの必要性を自分事として理解し、仲間と助け合うことにいきがいを感じるよう、住民の心を動かすための働きかけが必要と考えられる。

登壇者

【進行役】	目崎 智恵子	(公財) さわやか福祉財団、高崎市第1層SC
	佐藤 良子氏	立川市大山団地自治会元会長 現相談役
	野口 恵子氏	長瀬町第1層SC
	高田 幸好氏	長瀬町第1層協議体委員長
	島岡 繁希氏	大阪市東成区第1層SC
	升井 豊氏	きづくちゃん「たすけ愛」活動の会活動会員

■ 寄せられた声から

- だから結局何をすればいいの?という疑問を持ちつつ踏み出せないでいる2年目SCです。地域の中に出る→会話の中から情報を得る→点→線→面へと広がるような小さな掘り起こし→つなぐ。まずは一歩と思った。
- 参加者に喜びや達成感を味わってもらうことで地域住民の心を動かすことが、やらされ感を払しょくするコツ。
- 佐藤さんの「なんでもいい、してもらった人をほめる」という発言は、やりがいを感じるための一番大切にしなければならない考え方だと感じた。
- 野口さんの「協議体構成メンバーについて、役員の充て職ではなく、やる気のある人に委託した」「住民や協議体メンバーの意思・個性を尊重する」が大変参考になった。
- 升井さんの「役割のある人間として歳をとりたい」という発言、活動事例に優しさを感じました。ほんのちょっとした優しさが自分の活力になることも考えさせられました。

議事要旨 目崎 智恵子

住民がやらされ感なく、自分ごととして助け合いに取り組むためには、どのようなコツや手法があるのか。本分科会では、自ら助け合いの必要性を理解し、主体的に取り組みを始めている3つの地域の住民の皆さんと、住民の気持ちを大切に伴走しているSCによる活動事例を通してやらされ感を払しょくするコツと手法を探って行った。

東京都立川市大山団地元自治会長で現在相談役の佐藤さんから、住民が困らないまちをつくるためのヒントをいただいた。自治会長として、いろいろな活動やたまり場で住民の声に耳を傾け、住民のニーズに寄り添い、行政にはできない部分を補うために、一人ひとりを大切に様々なネットワークをつくってきた。住民がやらされ感なく活動できるよう、一人ひとりの工夫やアイデアを活かし、この指とまれと賛同する仲間を増やし、できることから活動をつくってきた。住民が達成感を得るために褒めることも大切にしている。多世代が力を合わせてお互いに支え合うために、一人が一役担える自治会づくりを行っている。

活動の基盤は「市能工商」（市…住民主体の自治会、能…能力、技術者の人材バンク、工…工夫、アイデアで企画運営、商…コミュニティビジネスで有効活用）。

次に協議体の活動ではどうでしょうか。住民一人ひとりの能力を最大限に生かして、助け合いの仕組みづくりに取り組まれている長瀬町の協議体委員長高田さんとSCの野口さんは、住民への啓発活動で、わかりやすく面白く、わくわくしながら参加できる活動をつくり、つながることで新たな出会いを生んでいる。点と点を線で結び面として活動を広げている。そしてみなさんが持っている個性やスキルを活かし、知って学ぶ環境づくり、困

ったと言える関係づくりも行っている。協議体でやらされ感なく活動できるコツは、知恵とアイデアを出し合い楽しみながら活動すること。高田さんの今の心情は「役割のある人間として役に立ちたい」。この言葉に共感する住民もたくさんいると感じた。

もう一つ、住民相互の有償のボランティア活動きづちゃん「たすけ愛」活動の会の活動会員の升井さんとSCの島岡さんからも思いやヒントをいただいた。

地域住民が困った時に頼みやすい活動をつくり、継続させていくために、SCとして島岡さんが心がけていることは、住民の声や思いを聞くこと。そのためには、定期的に活動者の集いを持ち、活動者同士のコミュニケーションも大切にしている。1つの点から面へと活動を広げられたのは、実際に活動している人の声の人が心を動かしたから。定年退職後これからどうやって過ごそうか、困ったら誰に助けてもらおうかと思っていた時に出会った助け合い活動にいつの間にかのめりこんでいた升井さん。「思い立ったが吉日」。今ではありがたいの言葉に感謝し、相手を気にかけてながら活動を行っている。

自治会でも協議体でも助け合い活動でも、みんなで一緒に話し、アイデアを出し合い、そのアイデアが活きる場をつくることで楽しさを実感している。そして、地域には、地域の人財を活かす取り組みが必要。人は、誰かに感謝されることで、いきがいや楽しみを実感し、その温かい気持ちが言葉となり、周りの住民の心を動かしていくと感じられる分科会であった。住民のやらされ感を払しょくするためには、人と人とのつながりやお互いの思いを共感し合うこと。そして楽しみながらできる活動を増やしていくことが大切であるとまとめた。

アンケートの結果 参加者概数：699名（オンライン：685名、会場：14名） 回答者数：245名

